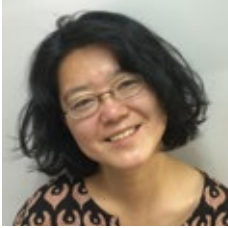


# Performing Arts Meeting in Yokohama 2017

国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2017

開催報告書





横浜に移りマーケットからミーティングに変わって7年、アジアフォーカスを開始して3年が経ち、同時代的舞台芸術の国際的なプラットフォームとしてのTPAMの理念や形式がようやく関係者の間で認知されてきたと感じています。TPAMの形式をそれぞれの関心系に合わせて発展させた舞台芸術の催事も世界各地で開かれるようになり、ネットワーク形成のためのプラットフォームを推進してきた者としては嬉しい限りです。これもひとえに参加者、協力者、各主催団体の皆様のおかげと、改めて御礼申し上げたいと思います。

丸岡ひろみ

国際舞台芸術ミーティング in 横浜 ディレクター

Photo by Tsukasa Aoki



今年は久しぶりにアーティストとしてTPAMに参加し、その充実ぶりを実感することができた。海外にいても、TPAMが話題となることが年々増えており、会期に合わせて来日スケジュールを組むプロデューサーが増えていることは嬉しい限りである。今後は、マッチングのみにとどまらず、日本の演劇状況全体に関心を持ってもらう方向を工夫する時期に来ているかもしれない。

平田オリザ

国際舞台芸術ミーティング in 横浜 アドバイザー

劇作家／演出家／青年団 主宰

©Kikuko Usuyama



会期が海外での仕事の日程と被ってしまったため私個人は今年のTPAMに参加できませんでしたが、そのぶんかえて、今回の盛況ぶりを多くの関係者から直接または間接的に、とても多く聞きました。TPAMが年々その成果を成長させていることはこの催事の理念が多くの人に浸透していること、そしてこの催事に参加することによって得られるメリットについてのイメージを多くの人が具体的に描けるようになってきていることなよりの証だと、私は思います。このプラットフォームの活況を、今後も維持していただきたいと思います。そしてこのプラットフォームに対して、もっと多くの日本国内の実践者たちが関心を持つようなマインドシフトが起これば、いいですね。

岡田利規

国際舞台芸術ミーティング in 横浜 アドバイザー

演劇作家／小説家／チェルフィッチュ 主宰

## 開催概要

名称	国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2017
通称	TPAM in Yokohama 2017/TPAM2017
会期	2017年2月11日（土）～19日（日）
主会場	KAAT神奈川芸術劇場、横浜美術館、横浜赤レンガ倉庫1号館、BankART Studio NYK、YCC ヨコハマ創造都市センター、象の鼻テラス、Amazon Club
主催	国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2017 実行委員会（国際交流基金アジアセンター、公益財団法人神奈川芸術文化財団、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団、PARC - 国際舞台芸術交流センター）
協力	BankART1929、特定非営利活動法人YCC、象の鼻テラス、EU・ジャパンフェスト日本委員会
助成	公益財団法人横浜観光コンベンション・ビューロー、損保ジャパン日本興亜「S O M P O アート・ファンド」（企業メセナ協議会 2021 Arts Fund）
後援	外務省、文化庁、神奈川県、横浜市
提携事業	横浜ダンスコレクション 2017、ダンスアーカイヴプロジェクト 2017、アジア・ドラマトゥルク・ネットワーク・ミーティング 2017、舞台芸術制作者オープンネットワーク（ON-PAM）

今年は「芸術見本市（TPAM/Tokyo Performing Arts Market）」としての第1回開催（1995）から21回目、同代的舞台芸術に取り組むプロフェッショナルを主対象と定義（2005）してから12回目、横浜に移りかつ「見本市」から「ミーティング」へ改称（2011）してから7回目、アジア・フォーカスを開始（2015）してから3回目の開催にして、過去最大の参加登録数を記録することとなった。

世界有数・アジア最大・国内唯一の国際的舞台芸術プラットフォームとして長い時間をかけて構築してきたネットワーク、支援団体や劇場・施設とのパートナーシップ、時代に応答するアーティストやプロジェクトの制作・招聘の実績、日本におけるアジア（とりわけ東南アジア）への社会的関心の高まり、アジア・フォーカスの取り組みの国際的認知向上、話題性の高い演目など、さまざまな要因が複合的に作用した結果と思われる。

参加方法や参加費用は概ねこれまでと同様で、プロフェッショナル（舞台芸術関係者）は参加登録を行なっ

### プロフェッショナル（舞台芸術関係者）参加方法

参加登録	オンライン登録、登録料 ¥3,500	
TPAMエクスチェンジ	グループ・ミーティングホスト登録料 ¥6,000～¥17,000、他はすべて無料	
TPAMディレクション	オンライン予約、無料～¥1,500（定額 ¥4,000で全演目予約可能）	
TPAMフリンジ	出展	登録料 ¥37,800～¥87,480
	鑑賞	オンライン予約、各登録団体がチケット価格を設定（割引など特典あり）

撮影：植田 謙一



オープニング・レセプション

た上で公演を予約したりミーティングに参加、オーディエンス（一般観客）はプレイガイドおよび会場でのチケット購入という形式をとった。

オーディエンス（一般観客）参加方法

TPAMエクスチェンジ	無料～当日 ¥500、一部のプログラムは入場不可
TPAMディレクション	Peatix（全演目）、チケットかながわ（KAAT神奈川芸術劇場、横浜美術館での公演のみ）でチケット販売（¥1,000～¥3,000）
TPAMフリンジ	各登録団体がチケット価格と販売方法を設定

今年、これまで多くのカテゴリーに細分化されていたプログラムを、

- ・ TPAMエクスチェンジ（交流プログラム）
- ・ TPAMディレクション（主催公演プログラム）
- ・ TPAMフリンジ（公募プログラム）

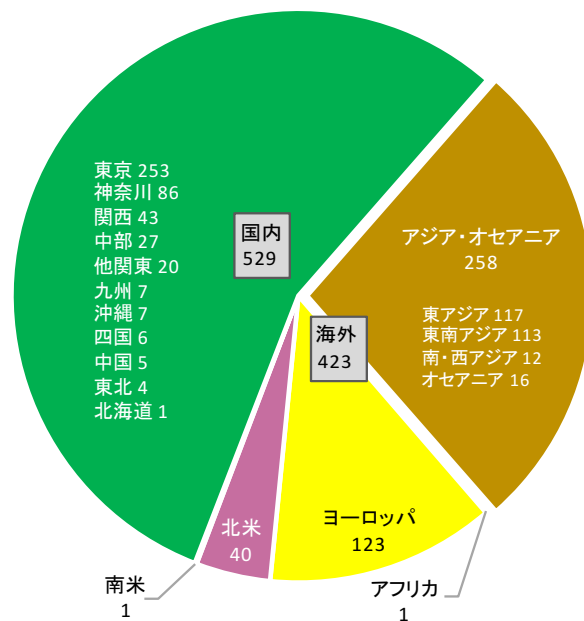
の3つのカテゴリーに整理した。横浜の主会場（TPAMディレクション、TPAMエクスチェンジ）および横浜・東京の複数会場（TPAMフリンジ）で9日間に渡って展開。専門的な内容・機能に特化した一部の交流プログラムを除き、一般観客も参加可能とした。各カテゴリーの詳細については後述するが、今年は主催公演プログラムに一般観客の動員に適しかつ話題性の高い演目が複数あったことから、動員数も過去最大を記録し、催事としての国内での社会的認知が向上した。

参加登録者の拠点国・地域は右の通り。アジアにフォーカスした舞台芸術プラットフォームとしての国際的認知が向上しており、それが国内あるいはヨーロッパや北米からの参加者の増加にもつながっていると思われる。あるセクターへの注力が他のセクターにも波及するのはネットワーク事業の特性のひとつであり、今後も日本→アジア→世界という単線的な図式に陥ることなく、「世界をアジアに」紹介するというベクトルも意識しながら、アジア・フォーカスを多面的に展開していきたい。

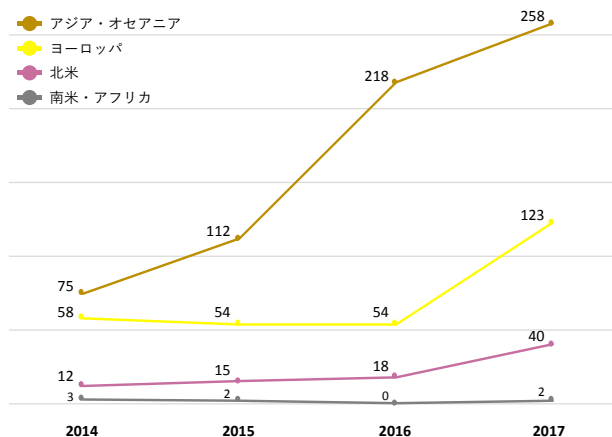
2011年に「見本市」から「ミーティング」に改称したのは、プロダクションの売買という短期的な「成果」の追求に終始しないネットワーク事業として再出発するためだったが、「バイヤー」であることを強制しない大らかな空気が逆に「購買欲」を刺激しているのか、改称以降いわゆる「成約数」はむしろ増加傾向にある。ここ3年の「成約数」を表に挙げる（古いデータほど集計期間が長いことに注意されたい）。

TPAM2017に参加したアーティストのうち、今後の海外公演・国際ツアーなどが現時点で72件検討されてお

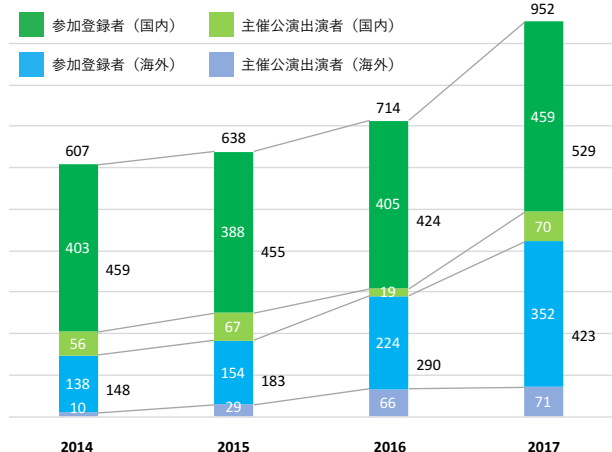
参加者拠点地域内訳（2017）



海外参加者拠点地域推移（2014～2017）



参加者数推移（2014～2017）



り、そのうち26件が確定している。ただし、TPAMでの「発見」や「出会い」からプロジェクトが成立し実施されるまでに3年、5年といった尺度の時間が経つことは珍しくなく、様々なプロセスを経て実現したときには、「きっかけ」が何であったか企画者自身にさえ分からなくなっていることも多い。また、紹介したプロダクションが「売れる」という形以外にも、中長期的な多様な成

に、アジア的共同制作スキームの実践的事例を提示し得たということも大きな「成果」と考えている。国際交流基金アジアセンターの設立とともに開始したTPAMのアジア・フォーカスは、政府の掲げる「文化のWA（和・環・輪）プロジェクト～知り合うアジア～」に伴う2020年までという時限つきの予算拡大に負うところが大きい。であればこそ2020年以降の継続的な展開に資するような先例を作るため、今しかできない実験的取り組みを考えていきたい。

海外公演、ツアーなどTPAM参加アーティストの動向  
(案件数 / 確定数\*)

	2015	2016	2017
アーティスト数	26/23	24/20	39/12
プロジェクト数	92/77	59/41	72/26
公演地(国・地域)	26/24	22/18	25/10
公演地(都市)	59/55	29/27	34/15

\* 案件数、確定数とも2017年6月現在(随時更新中)。案件浮上、確定・実現に概ね1~3年の時間差あり。

ぜひまた参加して、音楽家、作曲家、ダンサーなど日本のさまざまなアーティストについて知り、コラボレーションの機会を探りたい。

(フェスティバルディレクター、40代、ベトナム/デンマーク)

全プログラムの一覧は6~9頁を、各プログラムについては10頁以降を、メディア掲載などの一覧は20~22頁を参照されたい。

果の形があり得る。それらの追跡と多角的評価は今後の課題である。

例えば、今年紹介し、7カ国10都市のツアー(計画含む)につながったエコ・スプリヤント『BALABALA』(TPAMが参画する3本目のアジア国際共同制作となった)は、インドネシアのアーティストがインドネシアの離島で滞在創作するという作品の共同制作にベルギー、オーストラリア、ドイツ、台湾、日本が参画するという、「日本をアジアに」「アジアを世界に」紹介するだけでないトランスナショナルで双方向的な協力関係の実例となった。TPAMとしては、公演の「成約」以上



撮影：古原和臣

開催概要 | プログラム一覧

プログラム		会場	2/11 (土祝)	2/12 (日)	2/13 (月)	2/14 (火)	2/15 (水)	2/16 (木)	2/17 (金)	2/18 (土)	2/19 (日)
オープニング・レセプション*		YCC ヨコハマ創造都市センター 1F		12:00							
グループ・ミーティング*						10:00-15:30					
プリティッシュ・カウンスル/ クリエイティブ・スコットランド レセプション*		BankART Studio NYK 2F				15:10					
アーティスト・サロン レセプション*							15:10				
スピード・ネットワーキング*						10:00-15:30					
シンポジウム & トーク	批評的舞臺芸術と舞臺芸術批評について—ポピュリズムの時代を迎えて		15:00-21:00								
	TPAMディレクション ディレクターズ・トーク:横堀ふみ × 加藤弓奈	BankART Studio NYK 2F 2Bギャラリー			11:00-12:30						
	アーティスト・トーク1:ゴック・ダイ × ジェン・シュー × 恩田晃				13:30-15:00						
	アーティスト・トーク2:アビチャップン・ウィーラセタクン × マックス=フィリップ・アッシュンブレナー				15:30-16:30						
	共同製作が生まれるまで:『Simon Says』の事例から	BankART Studio NYK 2F ライブラリ					17:30-19:00				
	アーティスト・トーク3:平田オリザ × ケン・イーウェイ	横浜美術館 グランドギャラリー						15:00-16:30			
	アーティスト・トーク4 + 映像上映:エコ・スプリヤント × 齋藤啓									11:00-13:00	
	ワーキング・グループ (招待制)							10:30-13:30			
	ディスカッション1:女性のパフォーマンスのドラマトウルギー							14:00-15:30			
	レクチャー1:オン・ケンセンによる基調講演							16:00-17:00			
ラウンドテーブル:アジアのドラマトウルギー—ルーツと伝統をめぐって								10:30-12:30			
ディスカッション2:ダンスのドラマトウルギー—身体、動き、記憶	BankART Studio NYK 2F ライブラリ & 2Bギャラリー							14:00-16:00			
ディスカッション3:異文化と異分野								16:30-18:30			
レクチャー2:東南アジアのドラマトウルギー—アルコ、レンツとカンボジア、インドネシア、ベトナムのコンテンポラリー・ダンス									10:30-11:30		
ディスカッション4:ジェンダー的/クィア的ドラマトウルギー									12:30-13:30		
ディスカッション5:ドラマトウルギーから見た日本									14:30-16:00		
クロージング (招待制)									16:30-17:30		
ネットワーキング	報告会							11:00-13:00			
ネットワーキング	総会 (会員制)							14:00-16:00			
ONLINE (TPAM)	シンポジウム1:アジアにおけるダンスハウス・ネットワーク構想—European Dancehouse Network (EDN) の活動を参考に	BankART Studio NYK 2F 2Bギャラリー							11:00-13:00		
ONLINE (TPAM)	シンポジウム2: (改めて) 公共性とは何か?—公共圏の創造を目指して								14:00-16:00		
クロージング・パーティー*		象の鼻テラス									21:00
レイトナイト・ミーティング・ポイント*		Amazon Club					21:00-25:00				
TPAMディレクション	アビチャップン・ウィーラセタクン『フィーバー・ルーム』	KAAT神奈川芸術劇場 ホール	14:00 16:30 18:30	14:00 16:30 18:30	17:00 19:30	17:00 19:30	17:30 19:30				
	パブリック・レコーディングス『パフォーマンスの百科事典』	BankART Studio NYK 1F Kawamata Hall		15:00							
	サムート・タイ: 未完の歴史たち **	BankART Studio NYK 3F 3B & 3Cギャラリー		16:00-22:00	11:00-17:00						

\* 一般観客入場不可

\*\* 参加アーティスト: ビン・クラン、プラティット、プラサート、藤田千明、ヘンリー、アンドパトナリス × テンタルズ、サン・ピッタヤ、ベーフアン、リアム・モーガン、ピシタクン、クアンタレ、シリン、シェーン・ブナグ、タイキ、サクビシット、ワンタニー、シリパッタナー、ナンタクン、ピヤラット、ピヤボンウィット、ワライラック、ヒランセータワット、エプリー&デヴィッド、リーヴ、Soi 48

開催概要 | プログラム一覧

プログラム		会場	2/11 (土祝)	2/12 (日)	2/13 (月)	2/14 (火)	2/15 (水)	2/16 (木)	2/17 (金)	2/18 (土)	2/19 (日)
T P A M テ レ レ ク シ ョ ン	ゴック・ダイ / センヤワ	KAAT神奈川芸術劇場 中スタジオ		20:00	19:00						
	ジェン・シュー 『独儀：七つの息』					17:00 20:30					
	マリカ・タネジャ 『Be Careful』	KAAT神奈川芸術劇場 大スタジオ				19:00	16:00				
	平田オリザ + 盗火劇団 『台北ノート』	横浜美術館 グランドギャラリー					20:00	13:00 19:00			
	2人 (金氏徹平 × 山田晋平 × 青柳いづみ) 『TOWER (theater)』	BankART Studio NYK 3F 3Bギャラリー						16:00	16:00		
	酒井幸菜 × 藤田貴大 × 吉田聡子 『Layer/Angle/ Composition』	BankART Studio NYK 3F 3Cギャラリー						17:30	17:30		
	山下残 『悪霊への道』	KAAT神奈川芸術劇場 中スタジオ							20:00	17:30	15:00
	余越保子 『ZERO ONE』	KAAT神奈川芸術劇場 大スタジオ								20:30	13:30 19:00
	【関連上映】余越保子 『Hangman Takuzo』	KAAT神奈川芸術劇場 5F メインロビー								19:15	12:15 17:45
	エコ・スプリヤント 『BALABALA』	KAAT神奈川芸術劇場 ホール								19:00	17:30
アジア・アーティスト・インタビュー	BankART Studio NYK 2F 2Aギャラリー					11:00-19:00					
庭劇団ベニノ 『ダークマスター』	こまばアゴラ劇場	14:00 19:00	14:00								
KPR / 開幕ベナントレース 『あしたの魔女ヨー [或いはRocky Macbeth]』	小劇場 楽園	14:00 18:00	13:00 17:00								
H-TOA 『これはベンです』	gallery to plus	11:00 15:00 19:00	11:00 15:00 19:00	11:00 15:00 19:00							
演劇集団砂地 『アトレウス』	吉祥寺シアター	14:00 19:00	14:00 19:00	14:00							
小池博史ブリッジプロジェクト 『注文の多い料理店』	かなっくホール 横浜市神奈川区民 文化センター	14:00									
乳歯 『知らせ #2』	STスポット	18:00	13:00 18:00	13:00							
7度 『M.M.S. — わたしのシュルレアリスム宣言』	La Grotte	11:00 16:00 19:30	11:00 16:00 19:30	16:00 19:30	14:00 19:30	14:00 19:30					
富士山アネット 『ENIAC』	横浜にぎわい座 のげシャレ	12:00 20:00	11:00	11:00 15:00 20:00	14:00 17:00						
shelf volume 23 『GHOSTS-COMPOSITION/ IBSEN』 (イブセン著 『幽霊』より)	The CAVE	14:00	14:00	14:00	14:00	14:00					
T P A M フ リ ン ジ	KAAT x 小野寺修二 (カンパニーデラシネラ) 『信号がない!』	KAAT神奈川芸術劇場 アトリウム	15:40 18:05	15:40 18:05							
	M.M.S.T 『罪と罰』	YCC ヨコハマ創造都市センター 3F	18:00	14:00							
	世田谷シルク 『こんこん / 跡』	さくらWORKS < 関内 >	18:00	13:00 18:00	19:30	14:00 19:30		14:00 19:30	14:00 19:30	13:00 18:00	14:00
	t t u (ティー・ティー・ウー) 『会議体』	artmania cafe gallery yokohama	18:00	14:00 18:00	20:00	16:00 20:00	14:00				
	Point View Art / Creative Links 『墓所事事~Picnic in the Cemetery~』 (a) 『時氏と、その愛人』 (b)	The CAVE	18:30b 21:00a	18:30a 20:30b	18:30b 21:00a	18:30b 21:00a	18:30b 21:00a				
贅沢貧乏 『みんなよるがこわい』	長者町アートプラネット 2F Chapter 2	19:00 21:30	19:00 21:30	19:00 21:30	19:00 21:30	19:00 21:30					
SILENCE *	UPLINK	19:30									
ミシェル・チュン @ la la team 『《相睨食相》 Move to Meet — a blind date experiment』	泰生ポーチ		16/17/18 /19:00	14/18/19 /20:00	14/18/19 /20:00	14/18/19 /20:00	14/18/19 /20:00				
Future Host Ensemble 『Future Host [未来主人]』	BankART Studio NYK 1F Kawamata Hall			16:00- 20:00	12-14/ 15-20:00						
アンサンブル・ゾネ ダンス公演 『霧のようなま なざし』	日暮里 d-倉庫			20:00	20:00						
けのび	象の鼻テラス				16:00	16:00					
Co. 山田うん スタジオパフォーマンス ~ 代表作 よりハイライト	YCC ヨコハマ創造都市センター 3F				19:00						

\* 参加アーティスト: Merzbow, Nyantora, duenn, 仙石彬人

開催概要 | プログラム一覧

プログラム	会場	2/11 (土祝)	2/12 (日)	2/13 (月)	2/14 (火)	2/15 (水)	2/16 (木)	2/17 (金)	2/18 (土)	2/19 (日)
シルクロード能楽会『シルクロード能「道成寺」～生演奏とダンスとフィルムによる～』	長者スタジオ				19:00			19:00		12:00
佐々木すーじん × 白井愛咲『試供品』	Archishop Library & Cafe				19:00	14:00 19:00				
石山雄三/A.PI.『0dB』	DDD AOYAMA CROSS THEATER				20:00	20:00	20:00			
西原尚 × つむぎね	BankART Studio NYK 1F Kawamata Hall					16:00				
カミニ・マニカム『LIPSTICK…Retold』	横浜人形の家 あかいくつ劇場					19:00				
カタルシツ演芸会『生きてる時間』	あうるすぽっと					19:00	19:00	19:00	13:00 18:00	
Kazuma Glen × Sammy Chien × Kouki Tange (NOddin)『Lies/Harmony 和とウソの間』	mass × mass   関内フューチャーセンター					19:00		21:00		20:15
KENTARO!! / 東京ELECTROCK STAIRS vol.14 — いつかモンゴリと眠る	こまばアゴラ劇場					19:30	19:30	19:30	15:00 19:00	17:00
マージナル・コンソート	SuperDeluxe					19:30				
鉄秀『ネリヤカナヤ』	両国BEAR					20:00	20:00	20:00		
快快『CATFISH』	CLASKA ROOM 402					22:00	11/14/ 19:30/22	11/14/ 19:30/22		
北尾亘/Baobab レパートリーショーケース 2017 『TERAMACHI』(a) 『笑う顔縁— Laughing frame—』『2020』(b)	急な坂スタジオ ホール						16:00a 20:00b	14:00b	16:00b 20:00a	14:00a
革命アイドル暴走ちゃん『イカれた女子が世界を救う』	横浜人形の家 あかいくつ劇場						17:00 19:00			17:00 19:00
永守輝如『をどるいのち』	三鷹市芸術文化センター 星のホール						19:30			
Cinematic Theatre『君を見ている』	YCC ヨコハマ創造都市センター 3F						19:30	17:00 19:30		
横浜ダンスコレクション 2017 多田淳之介 『Choreograph』	横浜赤レンガ倉庫1号館 3Fホール						19:30	19:30	16:00	16:00
横浜ダンスコレクション 2017 アイサ・ホクソン 『HOST』	横浜にぎわい座のげシャレ							16:00	18:00	18:00
スイッチ総研『象の鼻スイッチ』	象の鼻テラス							10:00– 18:00	10:00– 18:00	10:00– 18:00
ダンスアーカイヴプロジェクト2017『「妻と兵隊」より』	横浜赤レンガ倉庫1号館 2Fスペース							18:00	14:30 20:00	14:30
横浜シアターグループ『YES THIS NIGHT — A Midwinter Double Bill』	World Peace Theater							19:00	14:00 19:00	13:00 17:00
東京発、即興音楽の新しい波*	Ftarrri							19:30		
チーム・チープロ『すべて神の子には翼がある』	新宿眼科画廊							19:30	12:00 16:00 19:30	12:00 16:00 19:30
小野彩加 中澤陽『宇宙からの文明』	The CAVE							19:30	19:30	
七里圭『音から作る映画のパフォーマンス上映』	Vacant							19:30	19:30	18:00
ヌトミック『Saturday Balloon』	BankART Studio NYK 1F Kawamata Hall							20:00	14:00 20:00	13:00 18:00
かもめマシーン『俺が代』	STスポット							20:00	20:00	13:00
Easternmost (nomad music company)『航海』	YCC ヨコハマ創造都市センター 3F								15:00 19:00	16:00
インテグレイテッド・ダンス・カンパニー響-Kyo 第4回 公演『パワボル』『Les gens de Tokyo (東京の人々)』	東京芸術センター ホワイトスタジオ								18:00	15:00
Circul'R Company『Frozen World』									21:30	
サンガツ『Catch & Throw』	The CAVE									15:00 19:30
仕立て屋のサーカス	BankART Studio NYK 3F 3Cギャラリー									17:00
有代麻里絵 舞踏ソロ公演『左に虹 — 揺り戻し』	ギャラリーバリ									19:00

\* 参加アーティスト：中村ゆい + b i k i、池田若葉 + 内藤彩 + 山田光 + 遠沢朋恵、竹下勇馬 + 石原雄治 + 増淵顕史、St r a y t o n e + 大上流一 + 徳永将豪





## 開催概要 | 会場分布

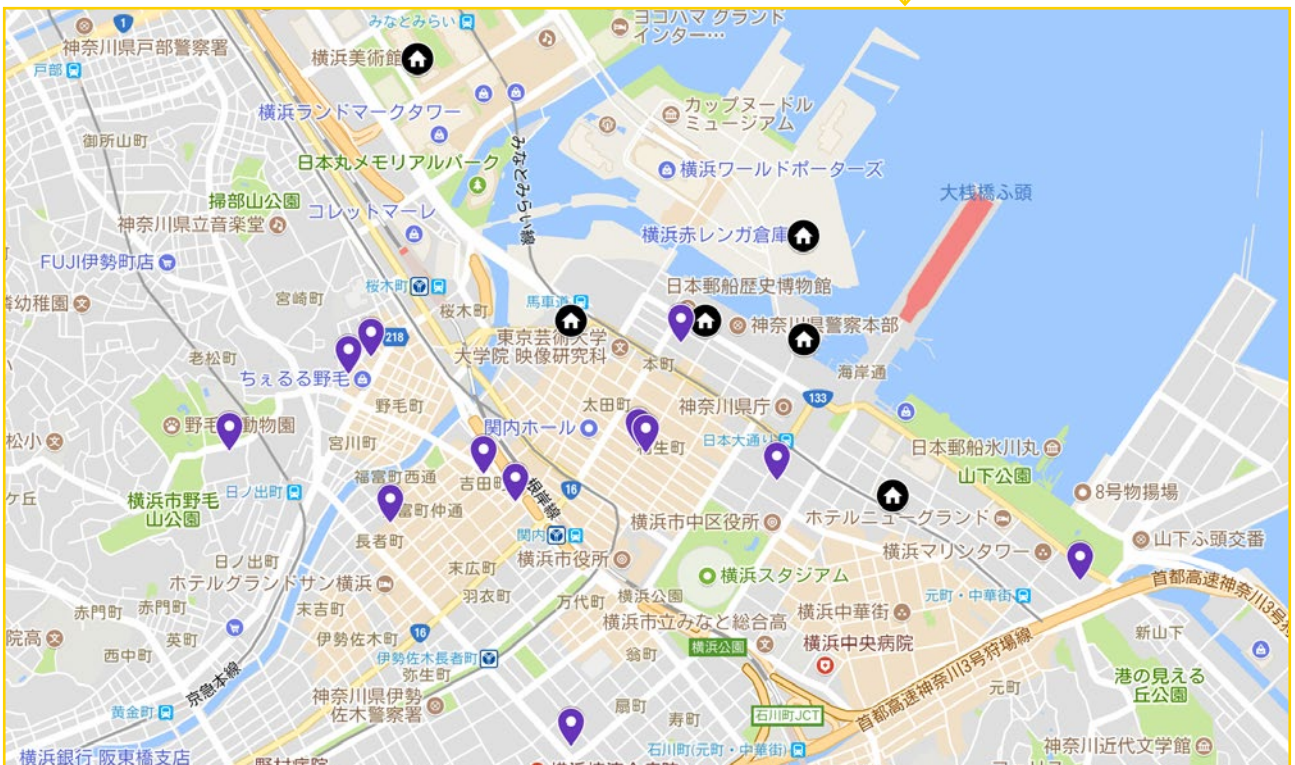
ほとんどの会場間を徒歩で移動できるのが素晴らしい。  
(コンテンポラリー・ダンス関係者、30代、インド)

### 会場数・分布推移

	2015	2016	2017
横浜会場数	17	16	20
東京会場数	10	14	17

 TPAM ディレクション、TPAM エクステンジ会場  
(一部会場は TPAM フリンジでも使用)

 TPAM フリンジ会場



BankART Studio NYK



KAAT 神奈川芸術劇場



YCC ヨコハマ創造都市センター

それまでの産業見本市形式のブース・プレゼンテーションに代えて2013年に開始した交流プログラム「スピード・ネットワーキング」「グループ・ミーティング」を総称して「TPAMエクステンジ」と呼んでいたが、今年からは同じ名称をシンポジウム、トーク、あるいはレセプションやパーティーなどの交流機会も含めたTPAMのネットワーキング機能の総称として用いることにした。

今年は「批評的舞臺芸術と舞臺芸術批評について——ポピュリズムの時代を迎えて」と題しての基調シンポジウム、TPAMディレクションの各演目に関連するトーク、グループ・ミーティング、スピード・ネットワーキングに加えて、提携事業2件、海外派遣団によるレセプション2件が実施された。

基調シンポジウム前半では、**振子びじん**（ダンサー／振付家）氏が韓国・光州アジア・カルチャー・センターでの「Our Masters — 土方巽」のキュレーションについて報告し、「政治」と「芸術」をめぐる諸概念について問題提起。後半の冒頭では**オン・ケンセン**氏（シンガポール国際芸術祭 ディレクター）がポピュリズムの圧力とシンガポールにおける検閲をめぐる批評的、法的、法的見地から見解を述べ、それを受けて、日本において

「自己検閲」と呼ばれ批判されている現象も含めた関連諸問題が、休憩をはさんで合計6時間に渡り議論された。その他シンポジウム、トークのテーマと登壇者について

グローバル化によって社会政治学的・文化的環境の変化が起き、欧米中心主義からアジアへとバランスが移行している今、TPAMは各国の重要なリーダーあるいは変化を担う人々の、中心的なミーティング・ポイントとなりつつある。

（演劇・パフォーマンス研究／演出、50代、タイ）

は12頁の一覧を参照されたい。

**グループ・ミーティング、スピード・ネットワーキング**は、ホスト数、コマ数については例年とほぼ同規模での実施となったが、参加希望者が急増し、スピード・ネットワーキングの枠はほぼ「完売」、1コマ10～12名の参加者を想定したグループ・ミーティングの「テーブル」枠では、参加者数が予想を超えホストの声が全員に届かないという問題が起こった。次回からは、「テーブル」というカジュアルな形式の良さを保ちつつ、各セッションをある程度音響的に隔離し、音声増幅のための機材を提供するなど検討したい。スピード・ネットワーキングのホストの顔ぶれ、グループ・ミーティングの多様なテーマについては、13頁以降の一覧を参照されたい。

提携事業の「**アジア・ドラマトウルク・ネットワーク・ミーティング2017**」は、2016年に形成されたアジア・ドラマトウルク・ネットワーク（ADN）による、シンガポールのCentre 42で開催された立ち上げシンポジウムに続く2回目の総会となった。アジア発のトランスナショナルなネットワークとして、また、ドラマトウルクという概念が可能にする制作・批評・研究を横断するようなダイナミックな言説展開において、ADNの重要性と潜在力は非常に大きく、今後もパートナーシップを継続していきたい。

同じく提携事業の**舞臺芸術制作者オープンネットワーク（ON-PAM）**は、例年通りの活動報告会と会員総会に加え、新しいタイプのネットワーキングを体現する例と

### ミーティング コマ数・参加者数

プログラム		コマ	プロ	一般	合計
主催	オープニング・レセプション	-	200	-	200
	グループ・ミーティング	76	1,957	-	1,957
	レセプション（クリエイティブ・スコットランド）	-	142	-	142
	レセプション（アーティスト・サロン）	-	157	-	157
	スピード・ネットワーキング	248	256	-	256
	シンポジウム & トーク	7	321	38	359
	レイトナイト・ミーティング・ポイント	-	600	-	600
	クロージング・パーティー	-	200	-	200
小計		3,833	38	3,871	
提携	ON-PAM	4	201	4	205
	ADN	10	631	10	641
	小計		832	14	846
合計		345	4,665	52	4,717



撮影：植野秀登



撮影：植野秀登



撮影：植野秀登

してダンス公演会場のネットワーク「ヨーロッパ・ダンスハウス・ネットワーク」(EDN)の中心メンバーを招聘して国際シンポジウムを実施。小野晋司(横浜ダンスコレクション プロデューサー)氏をモデレーターに、アナ・チャン(香港・西九文化区 ダンス部門統括)氏をゲストに迎え、EDNをモデルにしたアジアにおけるダンスハウス・ネットワーク構想の可能性について議論した。また、三島憲一(大阪大学 名誉教授)氏を招いて「公共圏」の概念を舞台芸術との関連で議論するシンポジウムも開催した。ON-PAMは今年夏にシンガポールでの会議開催を計画しているという。

ADN、EDNの他にも、下表に挙げたような比較的大

規模かつ目的意識の高い国際派遣団が多く参加した。中でもギリシャ、ポーランド、スペインの団体と共催で「アーティスト・サロン」を実施したフランス芸術振興会(ONDA/Office national de diffusion artistique)、およびブリティッシュ・カウンシル/クリエイティブ・スコットランドは、グループ・ミーティングのシステムを十全に活用したプレゼンテーションを行ない、同会場でそれぞれレセプションも開催し盛況だった。

主な国際派遣団

派遣団	国/地域	人数	備考
ONDA (Office national de diffusion artistique)	フランス、スペイン、ポーランド、ギリシア	27	グループ・ミーティング ホスト参加 (アーティスト/プロジェクト紹介)、レセプション開催
ADN (Asian Dramaturgs' Network)	インドネシア、シンガポール、タイ、フィリピン、マレーシア、インド、スリランカ、ベルギー、オーストラリア、米国	22	ADN ミーティング 2017 開催
British Council / Creative Scotland	スコットランド	12	グループ・ミーティング ホスト参加 (アーティスト/プロジェクト紹介)、レセプション開催
National Arts Council	シンガポール	11	アーティスト (主に演劇)
Australia Council for the Arts	オーストラリア	10	グループ・ミーティング ホスト参加 (アーティスト/プロジェクト紹介)
EDN (European Dancehouse Network)	ドイツ、オーストリア、スペイン、スロベニア、フランス、ノルウェー、イタリア、英国	8	ON-PAM シンポジウム パネリスト参加、横浜ダンスコレクション 交流プログラム参加
NPN (National Performance Network)	米国	7	ニューヨーク、サンフランシスコ、ポートランド他の重要フェスティバル/会場から代表が参加
國家表演藝術中心	台湾	5	國家表演藝術中心の全3施設(台北、台中、高雄)から代表が参加
ジャポニスム 2018	フランス	4	2018年の日本プログラムに向け、フェスティバル・ドートンヌ、国立シャイヨー劇場他から参加



撮影：前澤秀登

批評的舞台芸術と舞台芸術批評について



撮影：前澤秀登

ウィラセタクン × アッシュェンレンナー



撮影：前澤秀登

ゴック・ダイ × ジェン・シュ × 思田晃



撮影：前澤秀登

平田オリザ × ケン・イーウェイ



Courtesy of Asian Dramaturgs' Network

アジア・ドラマツルク・ネットワーク・ミーティング 2017



舞台芸術制作者オープンネットワーク シンポジウム 1

プログラム | TPAMエクスチェンジ | セッション・登壇者一覧

タイトル	登壇者/モデレーター	登壇者拠点国/地域
批評的舞臺芸術と舞臺芸術批評について——ポピュリズムの時代を迎えて 第1部: 『Our Masters — 土方巽』について	振子びじん (ダンサー/振付家)、島崎ろでい (写真家)、ソ・ドンジン (批評家/柱園造形芸術大学 インターメディア・アート学部 准教授)	日本、韓国
批評的舞臺芸術と舞臺芸術批評について——ポピュリズムの時代を迎えて 第2部: ポピュリズム時代に舞臺芸術批評は可能か	桜井圭介 (音楽家/ダンス批評)、内野儀 (東京大学大学院総合文化研究科 パフォーマンス・スタディーズ 教授)、オン・ケンセン (演出家/シンガポール国際芸術祭 フェスティバル・ディレクター)、武藤大祐 (ダンス批評家/群馬県立女子大学文学部 准教授/振付家)	日本、シンガポール
TPAMディレクション ディレクターズ・トーク: 横堀ふみ × 加藤弓奈	横堀ふみ (NPO法人DANCE BOX プログラム・ディレクター)、加藤弓奈 (急な坂スタジオ ディレクター)、小倉由佳子 (ロームシアター京都 事業担当係長)	日本
アーティスト・トーク1: ゴック・ダイ × ジェン・シュー × 恩田晃	ゴック・ダイ (音楽家)、ジェン・シュー (音楽家)、恩田晃 (サウンドアーティスト/キュレーター)	ベトナム、米国
アーティスト・トーク2: アピチャッポン・ウィーラセタクン × マックス=フィリップ・アッシュエンブレナー	アピチャッポン・ウィーラセタクン (アーティスト/映画作家)、マックス=フィリップ・アッシュエンブレナー (舞臺芸術プレゼンター)	タイ、ドイツ
共同製作が生まれるまで: 『Simon Says』の事例から	アナ・チャン (西九文化区 ダンス部門統括)、エマニエル・ヴォ=ディン (Le Phare national choreographic center of Le Havre Normandy 振付家・演出家/National Choreographic Centers Association 代表)、オン・ヨン・ロック (Unlock Dancing Plaza 芸術監督)	香港、フランス
アーティスト・トーク3: 平田オリザ × ケン・イーウエイ	平田オリザ (劇作家/演出家)、ケン・イーウエイ (台北芸術祭 芸術監督)	日本、台湾
アーティスト・トーク4+ 映像上映: エコ・スプリヤント × 齋藤啓	エコ・スプリヤント (ダンサー/振付家)、齋藤啓 (舞臺制作)	インドネシア、日本
ワーキング・グループ (招待制)	滝口健 (シンガポール国立大学英語英文学科学科演劇学専攻 リサーチフェロー/ドラマトゥルク/翻訳家/プロデューサー)、リム・ハウニェン (パフォーマンス作家/ダンス・リサーチ/ドラマトゥルク)、マリオン・ドゥ・クルーズ (振付家/パフォーマー/プロデューサー)、ルハニー・ベレラ (パフォーマー/コロポ大学 客員講師)、ジャンカル・ヴェンカテシュワラン (演劇ドラマトゥルク/演出家/プロデューサー/俳優/作曲家)	シンガポール、日本、マレーシア、オーストラリア、スリランカ、インド
ディスカッション1: 女性のパフォーマンスのドラマトゥルギー	シャーリーン・ラジェンドラ (National Institute of Education/演出家/パフォーマー)、アイサ・ホクソン (アーティスト)、ナタリー・ヘネディゲ (Cake Theatrical Productions 芸術監督)、ルハニー・ベレラ、シタ・フェリアニ (Kala Theatre 芸術監督)	シンガポール、フィリピン、スリランカ、インドネシア
レクチャー1: オン・ケンセンによる基調講演	シャーリーン・ラジェンドラ、オン・ケンセン (演出家/シンガポール国際芸術祭 フェスティバル・ディレクター)	シンガポール
ラウンドテーブル: アジアのドラマトゥルギー——ルーツと伝統をめぐって	ピーター・エッカサル (ニューヨーク市立大学 教授/Performance Studies international [PSI] 副代表/not yet it's difficult [NYID] ドラマトルク)、アヌラド・カプール (演劇研究者/演出家)、シャーリーン・ラジェンドラ、松井憲太郎 (富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ 館長/プロデューサー/批評家/ドラマトゥルク)、マリオン・ドゥ・クルーズ	米国、オーストラリア、インド、シンガポール、日本、マレーシア
ディスカッション2: ダンスのドラマトゥルギー——身体、動き、記憶	リム・ハウニェン、武藤大祐 (ダンス批評家/群馬県立女子大学文学部 准教授/振付家)、ヘリー・ミナルティ (ダンスキュレーター/リサーチ)、飯名尚人 (映像作家/演出家/ドラマトゥルク/プロデューサー)、中島那奈子 (研究者/ダンス・ドラマトゥルク/日本舞踊宗家藤間流 師範)	マレーシア、オーストラリア、日本、インドネシア
ディスカッション3: 異文化と異分野	ジャンカル・ヴェンカテシュワラン、シャーリーン・ラジェンドラ、デヴィッド・ブレジャー (not yet it's difficult [NYID] 芸術監督)、滝口健、ネス・ロック (Sipat Lawin Ensemble/パフォーマー/作家/ドラマトゥルク)	インド、シンガポール、オーストラリア、日本、フィリピン
レクチャー2: 東南アジアのドラマトゥルギー——アルコ・レンツとカンボジア、インドネシア、ベトナムのコンテンポラリー・ダンス	リム・ハウニェン、アルコ・レンツ (振付家/ダンサー)	マレーシア、オーストラリア、ドイツ
ディスカッション4: ジェンダー的/クィア的ドラマトゥルギー	リム・ハウニェン、アルフィアン・サアット (劇作家)、ギー・イマン・セマラ (トランス・アクティヴィスト/作家/演劇・映画作家)、川口隆夫 (マルチメディア・パフォーマンス・アーティスト/ダンサー)	マレーシア、オーストラリア、シンガポール、インド、日本
ディスカッション5: ドラマトルギーから見た日本	滝口健、長島確 (ドラマトゥルク)、萩原健 (明治大学国際日本学部 教授)、ピーター・エッカサル	シンガポール、日本、米国、オーストラリア
クロージング (招待制)	滝口健、リム・ハウニェン、ロビン・ルーン (ドラマトゥルク/研究者/劇作家)、ルハニー・ベレラ	シンガポール、日本、スリランカ
報告会	ON-PAM会員	日本、他
総会 (会員制)	ON-PAM会員	日本、他
シンポジウム1: アジアにおけるダンスハウス・ネットワーク構想 ～European Dancehouse Network (EDN) の活動を参考に	ヴェルター・ホイン (European Dancehouse Network 代表/Tanzquartier Wien 芸術監督)、ベッティーナ・マーズツフ (European Dancehouse Network 事務局長/tanzhaus nrw 芸術監督・取締役)、アナ・チャン (西九文化区 ダンス部門統括)、小野晋司 ([公財] 横浜市芸術文化振興財団 チーフプロデューサー [ダンス]、横浜赤レンガ倉庫1号館 館長)	オーストラリア、ドイツ、香港、日本
シンポジウム2: (改めて) 公共性とは何か? ～公共圏の創造を目指して	三島憲一 (大阪大学 名誉教授)	日本



レセプション (クリエイティブ・スコットランド)



レセプション (アーティスト・サロン)



レイトナイト・ミーティング・ポイント

プログラム | TPAMエクスチェンジ | グループ・ミーティング テーマ・ホスト一覧

枠	テーマ	ホスト	ホスト拠点国/地域
	タニノクロウが語る庭劇団ベニノ『ダークマスター』2016 メイキング・ストーリー	タニノクロウ (庭劇団ベニノ 演出家)	日本
	インブルゼ演劇祭 (ドイツ) 紹介	Florian Malzacher (Artistic director, Impulse Theater Festival)	ドイツ
	中国のコンテンポラリーダンスのマーケットと上海ダンスフェスティバルについて	Frank Fu [Fu Ning] (Director, DANCE STAGES SHANGHAI DANCE FESTIVAL)	中国
ルーム	国際交流基金の助成・フェロシップの紹介	佐藤幸治、島田靖也 (国際交流基金)	日本
	スコットランド：舞台芸術の現況と国際コラボレーションの可能性について	ローナ・ダギッド (クリエイティブ・スコットランド)、ノラ・キャンベル (ブリティッシュ・カウンシル)、湯浅真奈美 (ブリティッシュ・カウンシル)	英国、日本
	芸術分野での社会起業 — Phare The Cambodian Circus の事例から	Dara Huot, Momoko Ikeuchi (Chief Executive and Sales Account Manager, Phare The Cambodian Circus / Phare Performing Social Enterprise)	カンボジア
	日仏コラボレーションプロジェクト	Aymar Crosnier, Tatsuya Suzuki and Aya Soejima (Deputy Director, Program director and Performing Arts Adviser, Centre national de la danse and Maison de la culture du Japon à Paris)	フランス、日本
	舞台芸術のアーティスト・イン・レジデンス：城崎国際アートセンター (KIAC) の紹介	吉田雄一郎 (城崎国際アートセンター プログラム・ディレクター)	日本
	東京、香港、ミュンヘンへ：芸術公社の新規事業とそのビジョン 2017-2018	相馬千秋 (特定非営利活動法人 芸術公社 代表理事)	日本
	Buoy 北千住アートセンターの紹介	岸本佳子 (Buoy 北千住アートセンター 芸術監督)	日本
テーブル	アーティスト・サロン：フランス、ギリシア、ポーランド、カタルーニャのコンテンポラリー・アーティストを紹介	Onda - French Office for Performing Arts Circulation (Paris), Onassis Cultural Center (Athens), National Stary Teatr (Krakow), Institut Ramon Llull (Barcelona)	フランス、ギリシア、ポーランド、スペイン
	アジアのダンス：私たちが共有する思想	Anand Bhatt (Producer, Aakash Odedra Company and Aditi Mangaldas)	英国
	Meets Asia：ダンスとアウトリーチのプログラム	Xi Zhao (Choreographer / Dancer), Vanessa Maria Mirza (Director, Dance Bridges Festival), Phanhamith Phommachanh (WeDance Studio)	中国、インド、ラオス
	Centre 42：トランスナショナルなコラボレーションの機会	Daniel Teo (Research & Documentation Executive, Centre 42)	シンガポール
	ON-PAM 会員提案企画について	藤原顕太 (アーツマネージャー/舞台芸術制作者オープンネットワーク 理事/Explat 副理事長)	日本
	パワフルな異文化間コラボレーションを推進する：オーストラリアのパスベクティブから	Katherine Lyall-Watson, Caroline Dunphy (Belloo Creative), Sean Walsh (The Last Great Hunt)	オーストラリア
	若手アーティスト・カンパニー、若手制作者向け：国際フェスティバルを有効利用しよう！	宮久保真紀 (Dance New Air / 一般社団法人ダンス・ニッポン・アソシエーツ チーフプロデューサー)	日本
	Meets Asia：中国語圏の演劇	Loh Kok Man (Artistic Director, Pentas Project), Yuan Zhang (Curator / Director)	マレーシア、中国
	ストリートとコンテンポラリーダンスの出会い	Aeksaluck Oudomsouk (Choreographer, Fanglao Dance Company)、北尾亘 (Baobab 主宰)	ラオス、日本
	ヨーロッパからアジアまで、シルクロードのように繋がる芸能のコラボレーションとそこから生まれる新しい芸能の可能性	今井尋也 (シルクロード能楽会 演出家/民族芸能企画プロデューサー)	日本
	地域から考える横浜の芸術文化	田中真実 (特定非営利活動法人 ST スポット横浜 事務局長)	日本
	「土佐和紙 × 舞台芸術」プロジェクトについて	浜田あゆみ (ふたりっこプロデュース プロデューサー)	日本
	大地からクラウドまで — 台湾における先住民/デジタル舞台芸術の領域横断的・実験的多様性	Wen Huang (Project Manager, Fly Global)	台湾
	ダンス・ダンス・アジアにおける国際共同制作について	中島豊 (国際交流基金アジアセンター 文化事業第1チーム)、中西幸子 (ダンス・ダンス・アジア プロデューサー/株式会社バルコ エンタテインメント事業部)	日本
	那覇・黒板劇場のオープンに向けて	安和朝彦 (一般社団法人おきなわ芸術文化の箱 代表理事)	日本
西暦 2037 年の公立文化施設を想像する	大澤寅雄 (文化生態観察)	日本	
範宙遊泳の国際共同制作について<入門編/実践編>	坂本もも (範宙遊泳 制作)	日本	
PAMS 2017、「Journey to Korea Music」、「Connection Project」について	Michelle Lee (Korea Arts Management Service / KAMS)	韓国	
「東京芸術文化創造発信助成」のご紹介	佐藤道元 (アーツカウンシル東京 企画室企画助成課 企画係長/シニア・プログラムオフィサー)	日本	
「芸術文化による社会支援助成」のご紹介	佐野晶子 (アーツカウンシル東京 企画室企画助成課 プログラム担当係長/シニア・プログラムオフィサー)	日本	
「東京文化プログラム助成」のご紹介	角南晴久 (アーツカウンシル東京 企画室企画助成課 オリンピック・パラリンピック文化戦略担当係長)	日本	
ベトナム、東南アジアとのネットワーク	Tri Minh (Artistic Director, Hanoi SOUND STUFF festival), Le Vu Long (Artistic Director, Together Higher Dance Company)	ベトナム	
領域横断的コラボレーション、2018～19年、バンコク	Wasurat Unaprom (Artistic director and curator of Thong Lor Art Space Bangkok, Festival director of International Low Fat Art Fest)	タイ	
フェスティバルにおける人材育成・普及事業の可能性	横井貴子、河合千佳 (フェスティバル/トーキョー)	日本	
ニューデリーの The Katkatha Puppet Arts Trust について	Anurupa Roy (Founder and Manager, The Katkatha Puppet Arts Trust)	インド	
NPNVAN のプログラム「US-Japan Connection」と「Asia Exchange」について	Kyoko Yoshida (National Performance Network and Visual Artists Network)	米国	
スコットランド：ダンスにおける国際コラボレーションの可能性について	ジェニー・ラングランズ (ダンス・ベース)、ロビー・シンジ (アーティスト)	英国	

プログラム | TPAMエクスチェンジ | グループ・ミーティング テーマ・ホストー一覧

枠	テーマ	ホスト	ホスト拠点国/地域
	スコットランド：アートと高齢化における国際コラボレーションの可能性について	アン・ギャラハー（ルミネイト）、フィオナ・ミラー（トリッキー・ハット・プロダクションズ）	英国
	スコットランド：子ども向けの演劇・ダンスと、多世代の人々を対象としたパフォーマンスアート・プロジェクトにおける国際コラボレーションの可能性について	ヘリンダ・マッケルヒニー（パロウランド・バレエ）、ポール・フィッツパトリック（イマジネイト）	英国
	スコットランド：マルチメディア、クロスアートフォームのプロジェクトにおける国際コラボレーションの可能性について	キャシー・ボイド（クリプティック）、ジル・スミス（フェラル）	英国
	横浜ダンスコレクション & 東アジア・ダンスプラットフォーム	小野晋司、中富勝裕（横浜ダンスコレクション）、Karen Cheung (City Contemporary Dance Festival)	日本、香港
	アジアにおける舞台芸術のジャーナリズム	Samantha Lee (Multimedia Editor, CNN Philippines Life), Seno Joko Suyono (Journalist, Tempo Magazine), 藤原ちから (Director, BricolaQ / Editor / Critic)	フィリピン、インドネシア、日本
	Temps d'images：ルーマニアの新しいインディペンデント・アーティストを紹介するフェスティバル	Miki Braniste (President, Colectiv A)	ルーマニア
	「視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ」について	林建太（視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ 代表）	日本
	アジアのネットワーク/プラットフォームとの連携について	齋藤啓（舞台制作/舞台芸術制作者オープンネットワーク 理事）	日本
	ジョグジャカルタの領域横断的アーティスト交流、ネットワーキング、コレクティヴィズム	Wok The Rock (Artist / Co-director, Yes No Klub, Indonesian Netaudio Festival, MES 56)	インドネシア
	弱くあることの重要性 - 舞台芸術を通して人間性を回復する	Michele Chung (Artistic Team Leader, la la team)	香港
	北京のインディペンデント・シアター序説	Lin Wang (Director, Inside-out Theatre)	中国
	セゾン・アーティスト・イン・レジデンス、ヴィジティング・フェロー	稲村太郎（公益財団法人セゾン文化財団 プログラム・オフィサー）	日本
	舞台芸術の「創造環境イノベーション」—舞台芸術界の変革への取り組み助成—	岡本純子（公益財団法人セゾン文化財団 プログラム・オフィサー）	日本
	愛知県のインディペンデントなコンテンポラリーダンスシーン～office cassini とナゴコンの事例から～	菅井一輝（office cassini プロデューサー）	日本
テーブル	これでも、あれでもない — マレーシアのジョホールバルでアートを振興する	Chloe Yap (Festival Administrator, Johor Bahru: International Festival City [JB:IFC])	マレーシア
	公共劇場と障害当事者団体による鑑賞支援への取り組み	岸本匡史（あうるすぽっと プロデューサー）、廣川麻子（TA-net 理事長）	日本
	フィリピン演劇状況概観：国立劇団 Tanghalang Pilipino とミンダナオの演劇を中心に、鳥瞰的に見る	Liesl Catherine H. Batucan (Associate Artistic Director, Tanghalang Pilipino), Hobart P Savior (Xavier Center for Culture and the Arts, Xavier University)	フィリピン
	世田谷シルクの活動について	堀川炎（世田谷シルク 演出家/脚本家/振付家）	日本
	サイテッド・アート：意外な空間での意外な成果	Madeleine Flynn (Madeleine Flynn), Tim Humphrey and Xan Colman (A is for Atlas)	オーストラリア
	最もマージナルな視点に会える Seoul Marginal Theater Festival	Kyung-sung Lee (Artistic Director, Seoul Marginal Theater Festival)	韓国
	Ahmed El Attar の演劇作品と D-CAF Festival	Ahmed El Attar (Founder and Artistic Director, D-CAF Festival – Temple Independent Theatre Company)	エジプト
	今後の KYOTO EXPERIMENT について	橋本裕介（KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 プログラムディレクター）	日本
	インディペンデント・プロデューサーと国際的マーケット	Alasdair Campbell (Creative Producer / Director, AC Projects/Alternative Currents & Counterflows Festival)	英国
	カンボジアとのコラボレーションと Phare The Cambodian Circus	Dara Huot, Momoko Ikeuchi (Chief Executive and Sales Account Manager, Phare The Cambodian Circus / Phare Performing Social Enterprise)	カンボジア
ADAM – Asia Discovers Asia Meeting 2017 + 台北舞台芸術センター	YingLv WANG (Manager, Production & Marketing Department, Taipei Performing Arts Center)	台湾	
記憶の攻防：認識されずにいた町の記憶をダンスが扱うとき	檀原照和（“土方巽 1960 しずかな家” プロデューサー）	日本	
『タコはタコでも、く』の紹介	武田力（〔公財〕横浜市芸術文化振興財団 アーツコミッション・ヨコハマフェローアーティスト）	日本	
ケベックとフランスのサーカスとマルチメディア	John Lambert (President, John Lambert and Assoc. Inc)	カナダ	
『Remapping History: The Unwanted Population』について	Tiffany Chung (Artist)	米国	
「ふじのくににせかい演劇祭」について	丹治陽（SPAC – 静岡県舞台芸術センター 制作部副主任）	日本	



撮影：船澤秀登



撮影：船澤秀登



撮影：船澤秀登

ルーム

テーブル

プログラム | TPAM エクスチェンジ | スピード・ネットワーキング ホスト一覧

氏名	所属・肩書き	拠点国/地域
小原光洋	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 横浜市民ギャラリーあざみ野	日本
小島寛大、堀越芽生子	京都芸術センター [公益財団法人京都市芸術文化財団]	日本
ヒカルド・フライヤ	Prod.art.br プロデューサー	ブラジル
マリオン・ベトリウ	Frinje – Festival de Artes Escénicas Madrid 共同芸術監督	スペイン
岩村空太郎	公益財団法人仙台市市民文化事業団/せんだい演劇工房 10-BOX [演劇振興課演劇振興係]	日本
グジェゴシュ・レスケ	舞台芸術キュレーター/プロデューサー	ポーランド
キャシー・ボイド	クリプティック創設者/アーティスティック・ディレクター	スコットランド
吉田雄一郎	城崎国際アートセンター プログラム・ディレクター	日本
佐藤泰紀	ST スポット 館長	日本
ワン・リン	Inside-out theatre and cinema ディレクター	中国
宮久保真紀	Dance New Air プロデューサー	日本
フローリ・グッガー	brut ドラマトゥルク	オーストリア
アハメド・エルアッタール	Studio Emad Eddin [SEE] 設立者/ Downtown Contemporary Arts Festival [D-CAF] 芸術監督	エジプト
中島佳子、辻口実里	鳥の劇場 制作	日本
イ・ファヨン	韓国国立劇場 プロデューサー	韓国
藤田直義	高知県立美術館 館長	日本
河合千佳	フェスティバル/トーキョー 副ディレクター	日本
中祖杏奈	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 広報 ACY グループ	日本
唐津絵理	愛知県芸術劇場 シニアプロデューサー/あいちトリエンナーレ 2016 キュレーター	日本
アラスデア・キャンベル	Counterflows Contemporary Music Festival ディレクター	スコットランド
マチュー・ボンヴィエ	Le Quartz – scene nationale de Brest ディレクター	フランス
高萩宏	東京芸術劇場 副館長	日本
ケン・イーウェイ	台北芸術祭 芸術監督	台湾
矢作勝義	穂の国とよはし芸術劇場 芸術文化プロデューサー	日本
林美佐	KAAT 神奈川芸術劇場 プロデューサー	日本
岸本匡史	あうるすぽっと 制作	日本
丹治陽	SPAC 制作部 副主任	日本
小倉由佳子、武田知也	ロームシアター京都	日本
ヴァルター・ホイン	European Dancehouse Network 代表/ Tanzquartier Wien 芸術監督	オーストリア
マルク・オリヴェ	Teatre Mercat de les Flors アーティスティック・プログラマー	スペイン
ベッティナ・マーズツフ	European Dancehouse Network 事務局長/ tanzhaus nrw 芸術監督・取締役	ドイツ

撮影：吉藤和臣

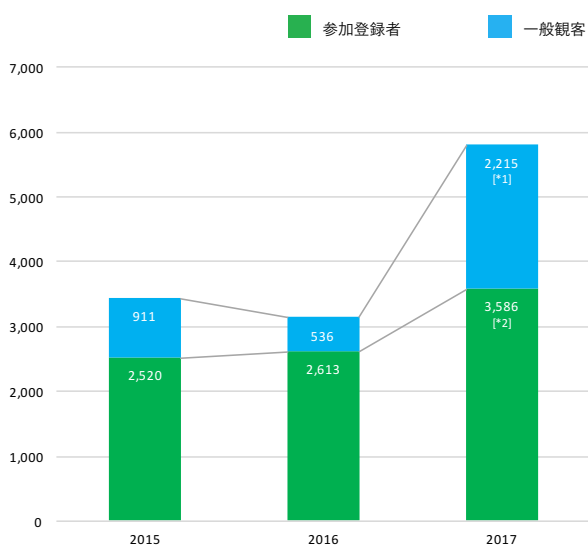


TPAMの主催公演プログラムはこれまで、若手制作者をディレクターに立てキュレーションを委嘱しての実験的プログラム「TPAMディレクション」、アジアにおける国際共同製作のスキームを探求する「TPAMコプロダクション」、作品の新旧もアーティストの世代も超えてアジアにおける「古典」ともいべき質を持った作品を紹介する「TPAMコンテンポラリー・クラシックス」などのカテゴリーに分割されていたが、今年からはこれらのカテゴリーをひとつに統合し「TPAMディレクション」と呼ぶことにした。

その結果、旧「TPAMディレクション」の延長上でディレクターにキュレーションを委嘱した演目とTPAM事務局が直接キュレーションした演目が並存することになったが、それが混乱を招いた様子はなく、交流プログラム「TPAMエクスチェンジ」、公募プログラム「TPAMフリンジ」との3本柱でプログラム全体の構造を明瞭化したことのメリットが優ったようである。

こうして新たにプログラムした今年のTPAMディレクションは、一般観客の動員に適しかつ話題性の高い演目を3作品（『フィーバー・ルーム』『台北ノート』『BALABALA』）含む比較的大規模な構成となった。図

TPAM ディレクション 観客数・内訳推移

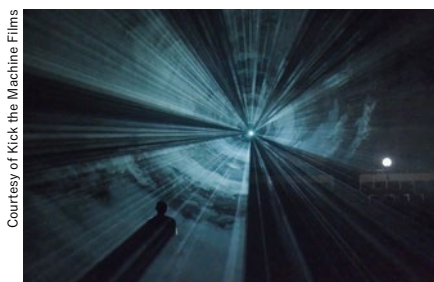


に示す通り、参加登録者の増加に加えて、一般観客の動員が飛躍的に伸びている。これは大規模な国際舞台芸術フェスティバルと比べれば依然として控えめな数字であり、かつこれらの演目をプログラムした狙いは動員そのものではなく、表現の質やプロダクション成立の文脈にある。しかし、一般観客の動員増加と催事としての視認性の向上が、プロフェッショナルの参加者にもポジティブな影響を与えていたことは積極的に評価すべきと思われる。

とりわけ、多くの上映や展示が日本各地で開催され「アピチャップン・イヤー」とも呼ばれた年度に日本初演したアピチャップン・ウィーラセタクン（タイ）初の舞台作品『フィーバー・ルーム』は、東南アジアから出現してコンテンポラリー・パフォーマンス・アーツという形式の美学的・技術的リソースを使い切ったエポック・メイキングな作品であり、それを国内外の、とりわけアジアの関係者に紹介できたことは大きな成果であった。この機会に佐々木敦（批評家/HEADZ 主宰）氏が行なったアーティストインタビューが国際交流基金アジアセンターのウェブサイトに掲載されている。

パブリック・レコーディングス（カナダ）の『パフォーマンスの百科事典』は、TPAM2016での同プロジェクトに関するプレゼンテーションを経て実現したコンセプチュアルな「上演」。パフォーマンスに関する様々な用語についてアーティストやライターが共同で「百科事典」を執筆、それを製本し、「開演」と同時に観客に配る。その本を読むことができるのは1時間の「上演」の間だけで、「終演」すれば本は回収され二度と読むことができない。アジアの執筆者を招き英語で「上演」することで、英語圏での実施では狙上にならなかった「共通通貨としての英語」というコンセプトが加わり、プロジェクトの深化にもつながった。

タン・フクエン（ドラマトゥルク/キュレーター/プロデューサー、シンガポール/タイ）ディレクションによる『サムート・タイ：未完の歴史たち』は、パフォーマンス5件、展示4件、上映6件、パーティー1件、参加アーティスト14組による2日間、合計12時間、途中入退場自由の「アトリエ」。2016年10月のラーマ9世の崩御



アピチャップン・ウィーラセタクン『フィーバー・ルーム』



パブリック・レコーディングス『パフォーマンスの百科事典』



『サムート・タイ：未完の歴史たち』より ピチエ・クランチェン



と同時期から企画を進め、タイ社会の複雑な現実をダンス、演劇、ヴィジュアル・アーツ、映画、音楽などのジャンルを横断して多角的かつ雑多に反映したユニークなアトリエとなった。タン氏はこれで、基本的に3年間としているTPAMディレクションへの取り組み期間を終える。今後は台北に拠点を移し、2018年から2020年まで台北芸術祭の芸術監督の任に当たるといふ。

『フィーバー・ルーム』について

著名な映像作家が初めて空間芸術、劇場スペースを活用した製作に挑戦したという話題性。その完成度の高さ。(映像文化の国際交流事業、50代、日本)

現代によみがえったプラトンの洞窟で、謎めいた個人的記憶と深く根を下ろした共同体的記憶の両方が探究される。(作家、30代、シンガポール)

TPAM2016で音楽プログラムのキック・オフを行なった恩田晃(サウンドアーティスト/キュレーター、日本/米国)は、今年ゴック・ダイ(ベトナム)、センヤワ(インドネシア)、ジェン・シュー(米国)のコンサートで本格的なキュレーションを開始した。本国では音源の販売も演奏も許されないゴック・ダイの『Thăng Mổ』はこれが世界初演で、このユニークなシンガー・ソングライターの知られざる才能を国内外のプレゼンターが目撃する貴重な機会となった。センヤワによるフィジカルで高密度かつユーモラスなパフォーマンス、台湾と東ティモール混血の前衛ジャズシンガーであるジェン・シューによる仮想的なルーツ探求の旅としてのコン

サートも好評で、いずれもメルボルンのフェスティバル「AsiaTOPA」に招聘されている。言語表現、身体表現の自由が必ずしも保証されていないアジア地域のパフォーマンス・アーツを紹介するにあたって音楽プログラムが果たし得る役割は大きく、恩田氏と共に今後の展開を検討中である。

マリカ・タネジャ(インド)『Be Careful』は、予定されていたチョン・ウニョン(韓国)『変則のファンタジー』がキャンセルとなったため急遽プログラムした。ユーモラスな教育劇のようなソロ・パフォーマンスと、それに続く「男女は平等になり得るか」というストレートな問題提起に基づき沈黙の気まずさも臆さず行なわれたディスカッションは、アジアにおけるフェミニズムという極めて複雑なテーマにインドの同時代的文脈で触れるもので、NHKワールドの密着取材を受け世界各地でインタビューが放映されることになった。

盗火劇団(台湾)と平田オリザによる『台北ノート』(世界初演)は、平田氏の代表作『東京ノート』の翻案。近未来の美術館で戦地から引き上げられてきた絵画を背景に展開する「静かな演劇」の古典を、横浜美術館のギャラリーを会場に、台湾の演劇・映画界の成熟した俳優たちが演じた。2017年9月には台北芸術祭で上演される。

加藤弓奈(急な坂スタジオ ディレクター)ディレクションは2年目。リハーサルスペースである急な坂スタジオのディレクターというバックグラウンドを生かし、横浜を拠点とするアーティストを多く採用、ユニークな創作プロセスをサポートし、国際的な文脈で紹介している。今年は美術(金氏徹平)、映像(山田晋平)、ダンス(酒井幸菜)、演劇(青柳いづみ、藤田貴大、吉田聡



撮影：前澤秀登



撮影：前澤秀登



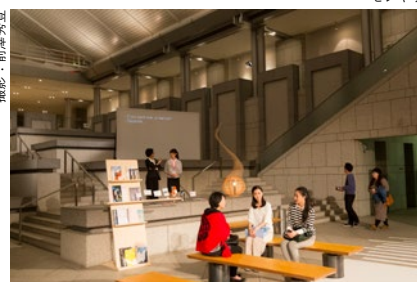
撮影：前澤秀登



撮影：前澤秀登



撮影：吉盛和臣



撮影：前澤秀登

ジェン・シュー『独儀：七つの息』

マリカ・タネジャ『Be Careful』

平田オリザ + 盗火劇団『台北ノート』

子)を横断するコラボレーションによる新作を2演目制作した。評価の高い異分野の若手アーティストが関わる人気演目となった。

「ダンス」「身体」を原理的に問い続け一貫性の高いプログラムを展開した横堀ふみ(NPO法人DANCE BOXプログラム・ディレクター)ディレクションは3年目を迎え、横堀氏はタン氏と同様今年度でTPAMディレクションを「卒業」した。山下残『悪霊への道』は、バリ舞踊の理念のユーモラスかつ精緻な言語化と、その理念を体現できない自らの身体を舞台上で対峙させ、表層的な「相互理解」に終始しない異文化交流の可能性を示唆する作品だった。ニューヨーク・タイムズなどで既に高い評価を得ていた余越保子(米国/日本)『ZERO ONE』は、2016年12月に他界した黒沢美香氏の追悼公演ともなった。

エコ・スプリヤント『BALABALA』は、インドネシアの離島ジャイロロでの持続的な「サイレント・ツーリズム」の取り組みから生まれ、TPAM2015(タン・フクエン・ディレクション)で話題を呼び世界各地をツアーした『Cry Jailolo』に続く2作目にして、TPAMが参画するアジア国際共同製作3作目となった。「ジャイロロ3部作」が計画されており、今後の展開に注目している。

2015年に開始したアジアン・アーティスト・インタビューは、今年シムリアップとハノイの3組を加え、通算15本のインタビューを映像インスタレーションの形式で紹介。東南アジア各地のアーティストの生々しい声に触れられる内容の貴重さに加え、高さ可変のモニタースタンドを自作しての機能的で美学的にも洗練されたインスタレーションとなり、TPAMエクスチェンジ会場に隣接して展示したため参加者のコミュニケーション促進にも寄与した。同じ映像をYouTubeでもプレイリスト

「TPAM Asian Artist Interview」として公開している。

### TPAM ディレクション 演目数等推移

	2015 *1	2016 *1	2017 *2
演目数	15	13	12
公演数	28	29	36 *3
展示数	1	3	1
関連国・地域数	8	11	12
国・地域内訳	インドネシア、シンガポール、タイ、フィリピン、マレーシア、中国、フランス、日本	インドネシア、カンボジア、シンガポール、タイ、フィリピン、マレーシア、インド、スリランカ、韓国、オーストラリア、日本	インドネシア、カンボジア、シンガポール、タイ、フィリピン、ベトナム、マレーシア、インド、スリランカ、米国、カナダ、日本
参加アーティスト	21	35	41
入場率	85.3%	81.9%	87.4%

\*1 全主催公演 (TPAM コプロダクション、TPAM コンテンポラリー・クラシックス、TPAM ディレクション) の合計

\*2 『サムート・タイ』(2日間、合計12時間、パフォーマンス5、展示4、上映6、パーティー1)は1演目2公演とみなして集計

\*3 うち12公演は『フィーバー・ルーム』

TPAMディレクションは入念に選ばれたプログラムで、ライブ・インスタレーション、音楽のコンサート、ダンス・パフォーマンス、あるいは大規模なホール作品まで、多様なフォーマットの作品を紹介してくれたのがよかった。

(ドラマトウルク/キュレーター、30代、オーストリア)



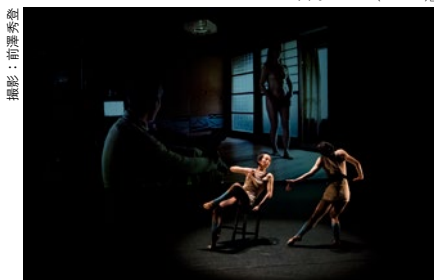
2人『TOWER (theater)』



酒井幸菜 × 藤田貴大 × 吉田聡子『Layer/Angle/Composition』



山下残『悪霊への道』



余越保子『ZERO ONE』



エコ・スプリヤント『BALABALA』



アジアン・アーティスト・インタビュー

2007年までは「TPAMフリンジ」と呼ばれていた公募プログラムを2008年に「TPAMショーケース」と改称したのは、「フリンジ」という言葉に含まれる「周縁的」「二次的」といった消極的ニュアンスを嫌い、主催公演プログラムと同等の重要性を持つプログラムという位置づけを定着させるためだったが、その結果、主催プログラムとの混同や、主催プログラムと予約システムが異なることによる混乱といった問題を抱え続けることになっていった。

しかし、近年「TPAMショーケース」への若手劇団の出展が海外公演につながるなどの成果が増加し、主催プログラムと同等の、あるいは新人発掘という狙いを持つ参加者にとっては主催プログラム以上の、重要性を持ち得るプログラムとしての認知が確立した。また、舞台芸術の国際フェスティバルやプラットフォームの間では、「フリンジ」という言葉の積極的な意味（メインのプログラムと比べてより実験的な演目や若手アーティストが多いなど）がすでに定着していると思われる。そこで今年、「TPAMディレクション」「TPAMエクスチェンジ」の改組に対応する形で、名称を「TPAMフリンジ」に戻し、公募プログラムとしての位置づけを明確にした。

名称変更によるネガティブな影響は現在までのところ観察されていない。次回からはフリンジ専用のロゴもデザインし、出展者にとっても、TPAM参加者あるいは一般観客にとっても、今まで以上に活用しやすい運営形態を目指す。複数のアーティスト／カンパニーが関わる企画の出展を誘致するため今年新設した「オーガナイザー登録」も、より使いやすいものになるようシステムを調整していきたい。

今年は過去最大の出展者数を記録し、その中で海外団体の増加が目立った。TPAMショーケース／フリンジは、TPAM参加者に公演情報を普及しネットワークを支援するものであって、公演会場の斡旋はある程度行なうとは言え、公演実施のための費用（会場費、制作費、その他）や労働力は一切提供していない。つまり自力で公演を成立させることが前提であり、海外のアーティスト／カンパニーが自主公演を出展することは非常に難しいはずであるにも関わらず、このために助成金などを得て日本公演を行ないTPAMフリンジに出展する海外団体が急増したことは、それだけTPAMに参加するプロフェッショナルの顔ぶれへの期待と評価が高まっていることの現われと考えられる。

なお、国内団体が出展する公演に海外のアーティストが参加しているというケースは以前から珍しくないが（2015年3カ国3名、2016年10カ国10名、今年11カ国11名）、この数は、例えば2016年の「アジア・ミーティ

TPAM フリンジ 出展状況・動員数推移

	2015	2016	2017
登録団体数	35	36	53
うち海外団体数	0	2	8
海外団体拠点国／地域		香港、米国	マレーシア、韓国、香港、マカオ、ドイツ、フランス、米国
演目数	51	46	60
公演数	143	219	243
横浜会場数	26	22	35
東京会場数	9	14	18
TPAM 参加登録者 予約数	659	822	1,375
全動員数*	8,480	9,920	13,255

\* 登録団体アンケート回答と事務局による試算に基づく。

ング・フェスティバル」のような多国籍のプロジェクトが1件登録されただけでも大きく増減するため、出展状況の推移観察には適さず、上の表には含めていない。

今年はTPAMフリンジの枠で2件の提携事業を得た。「横浜ダンスコレクション2017」は多田淳之介『Choreograph』（世界初演）とTPAM2015でワーク・イン・プログレスを上演したアイサ・ホクソン『HOST』（日本初演）を出展。ダンスアーカイヴプロジェクト2017は1938年に帝国劇場で発表され戦地慰問ツアー公演が実施された『麦と兵隊』を再解釈するプロジェクトを出展し、高く評価された。それぞれ批評サイトや新聞で取り上げられている。

また、パラリンピックの文脈でインテグレイテッド・ダンス・カンパニー響 - Kyoの実践が高い関心を集め、NHK神奈川の取材を受けた。番組は再編集され総合テレビや国際局でも放映された。

TPAMディレクションで音楽プログラム（恩田晃ディレクション）を開始したことが影響し、昨年度からフリンジに実験音楽のプログラムが増加している。「舞台芸術」はともかく「パフォーマンス・アーツ」という概念／言葉には音楽も含まれており、とりわけパフォーマンス性を備えた実験音楽はTPAM参加者の間でも需要が高いことが分かった。伝統的な意味での「音楽」は、マーケットの性質が大きく異なるためTPAMで紹介することはあまり効率的でないが、パフォーマンス・アーツの一形式としての音楽の誘致は、恩田ディレクションとの住み分け／連携も含め、今後積極的に検討していきたい。

掲載媒体一覧 (2017年9月現在)

媒体種類	媒体名	掲載/放送日・号	内容など
新聞	読賣新聞 神奈川県版	2017/1/5	TPAM ディレクター丸岡インタビュー
	毎日新聞 夕刊 全国版	2017/1/18	TPAM ディレクション作品を中心に紹介、交流プログラムにも言及
	The Japan Times	2017/1/25	TPAM とシアター・コムズを東京、横浜の現代演劇ファンに向けて紹介
	東洋経済日報	2017/2/3	TPAM の歴史とアジア・フォーカスを紹介
	産経新聞 朝刊	2017/2/4	TPAM の概要と『フィーバー・ルーム』『台北ノート』『BALABALA』を紹介
	台湾新聞	2017/2/6	『台北ノート』情報掲載
	毎日新聞 夕刊	2017/2/6	TPAM ディレクター丸岡のコメントを中心に催事を紹介、主に TPAM ディレクションの東南アジア作品に言及
	読賣新聞 夕刊	2017/2/7	催事の概要と『BALABALA』を紹介
	しんぶん 赤旗	2017/2/8	催事の概要と『台北ノート』『BALABALA』を紹介
	神奈川新聞	2017/2/12	アビチャップン氏インタビュー
	西日本新聞	2017/2/15	TPAM フリンジ『妻と兵隊』より(ダンスアーカイブプロジェクト 2017) 記事
	東京新聞 朝刊	2017/2/18	TPAM フリンジ『Lies/Harmony 和とウツの間』(Kazuma Glen 他) 記事
	中国時報 (台湾)	2017/2/22	『台北ノート』公演記事
	台湾新聞	2017/3/6	『台北ノート』レポート、平田オリザ氏インタビュー
雑誌	静岡新聞	2017/6/20, 7/4, 7/18	TPAM の歴史と今後の展望について藤井慎太郎氏による連載記事、全 3 回 (共同通信より配信)
	福井新聞	2017/6/20, 7/4, 7/11	同上
	Casa BRUTUS	2016/8	特集「見逃せないアート 100」内で TPAM を紹介
	KANAGAWA ARTS PRESS	2017/1/13	情報掲載
	THE WIRE (英国)	2017/1	情報・広告掲載
	広報よこはま	2017/1	情報掲載
	mirea	2017/1	情報掲載
	地域創造レター	2017/1	「『TPAM - 国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2017』開催のお知らせ」
	ヨコハマよみうり	2017/2/5	情報掲載
	SALUS	2017/2	情報掲載
	月刊アートコレクターズ	2017/2	アビチャップン特集、KAAT での『フィーバー・ルーム』上演に言及
	ギャラリー	2017/2	情報掲載
	METROPOLIS	2017/2	情報掲載
	QUOTATION	2017/2	アビチャップン氏インタビュー、KAAT での『フィーバー・ルーム』上演に言及
ラジオ	BankART News	2017/2 ~ 3	情報掲載
	悲劇喜劇	2017/3	徳永京子氏が佐々木敦氏との対談にて TPAM に言及
	TEMPO (インドネシア)	2017/3/27	『BALABALA』劇評
	TEMPO (インドネシア)	2017/3/27	『悪霊への道』劇評
	ダンスマガジン	2017/5	『悪霊への道』『BALABALA』『ZERO ONE』合わせての劇評
	美術手帖	2017/5	『フィーバー・ルーム』劇評
	テアトロ	2017/5	高橋宏幸氏による『悪霊への道』劇評
	日本照明家協会誌	2017/5	貴成人氏による『フィーバー・ルーム』『悪霊への道』、TPAM フリンジ『HOST』『いつかモンゴリと眠る』評
	intoxicate	2017/8	恩田晃氏によるアビチャップン作品の音響論、『フィーバー・ルーム』に言及
	FM おだわら	2017/1/29	情報告知
	NHK-FM 「横浜サウンド☆クルーズ」	2017/1/31	TPAM ディレクター丸岡出演
	FM おだわら	2017/2/5	情報告知
	NHK-FM 「横浜サウンド☆クルーズ」	2017/2/6	TPAM 広報雨宮出演
	FM おだわら	2017/2/12	情報告知
テレビ	NHK World RADIO JAPAN (国際)	2017/2/26	『台北ノート』について、平田オリザ氏インタビュー、他 (中国語放送)
	NHK 神奈川「ひるまえホット」	2017/3/7	TPAM フリンジ (インテグレイテッド・ダンス・カンパニー響 - Kyo) を通じて TPAM を紹介
	NHK World「NEWSROOM TOKYO」(国際)	2017/3/14	『Be Careful』特集
	NHK World「NEWSLINE」(国際)	2017/3/22	「ひるまえホット」国際版
	NHK「おはよう日本」	2017/3/29	「ひるまえホット」再編集版
	ステージナタリー	2016/4/7	「『TPAM2017』開催決定、2017年2月11日から19日まで」
	舞台制作 PLUS+	2016/4/8	「来年2月11日から9日間『TPAM in Yokohama 2017』会期決定」
	演劇最強論-ing	2016/5/25	範宙遊泳制作者が TPAM 参加から海外ツアーに至る経緯を紹介
	日仏演劇協会 公式ブログ	2016/7/1	インタビュー募集
	舞台制作 PLUS+	2016/8/2	「『TPAM フリンジ』参加登録の受付開始」
	Obo here we art (台湾)	2016/9/12	『台北ノート』情報掲載
	THE WIRE (英国)	2016/10/1	恩田晃ディレクション情報掲載
	ART NEWS RELEASE	2016/10/20	TPAM@KEX ミーティング情報掲載
	goo ビジネス EX	2016/11/15	リリース配信会社経由で掲載
共同通信社	2016/11/15	リリース配信会社経由で掲載	
共同通信デジタル	2016/11/15	リリース配信会社経由で掲載	
共同通信 PR ワイヤー	2016/11/15	リリース配信会社経由で掲載	
zakzak	2016/11/15	リリース配信会社経由で掲載	
毎日新聞	2016/11/15	リリース配信会社経由で掲載	
SANSPO.COM	2016/11/15	リリース配信会社経由で掲載	
SankeiBiz	2016/11/15	リリース配信会社経由で掲載	
沖縄タイムス	2016/11/15	リリース配信会社経由で掲載	
下野新聞 SOON	2016/11/15	リリース配信会社経由で掲載	
京都新聞	2016/11/15	リリース配信会社経由で掲載	
奈良新聞 WEB	2016/11/15	リリース配信会社経由で掲載	
Response	2016/11/15	リリース配信会社経由で掲載	
宮崎日日新聞	2016/11/15	リリース配信会社経由で掲載	
excite news	2016/11/15	リリース配信会社経由で掲載	
J-CAST トレンド	2016/11/15	リリース配信会社経由で掲載	
AFPBB News	2016/11/15	リリース配信会社経由で掲載	
VNR.ch	2016/11/15	リリース配信会社経由で掲載	
RBB TODAY	2016/11/15	リリース配信会社経由で掲載	
Watch Headline	2016/11/15	リリース配信会社経由で掲載	
Jタウンネット 島根県	2016/11/15	リリース配信会社経由で掲載	
Jタウンネット 京都府	2016/11/15	リリース配信会社経由で掲載	
Jタウンネット 岡山県	2016/11/15	リリース配信会社経由で掲載	
StarHome	2016/11/15	リリース配信会社経由で掲載	
47NEWS	2016/11/15	リリース配信会社経由で掲載	
internetcom	2016/11/15	リリース配信会社経由で掲載	
CINRA	2016/11/16	情報掲載	
SPICE	2016/11/16	CINRA 記事転載	
excite news	2016/11/16	CINRA 記事転載	

## 掲載媒体一覧 (2017年9月現在)

媒体種類	媒体名	掲載/放送日・号	内容など
	YAHOO! ニュース	2016/11/16	CINRA 記事転載
	livedoor NEWS	2016/11/16	CINRA 記事転載
	イベントマーケティング	2016/11/16	リリース配信会社経由で掲載
	デザイン情報サイト [JDN]	2016/11/16	リリース配信会社経由で掲載
	CNET Japan	2016/11/17	リリース配信会社経由で掲載
	ZDnet Japan	2016/11/17	リリース配信会社経由で掲載
	宅ふぁいる便	2016/11/17	リリース配信会社経由で掲載
	excite news	2016/11/17	リリース配信会社経由で掲載
	デーリー東北	2016/11/17	リリース配信会社経由で掲載
	Asahi Shimbun Digital & M dot.	2016/11/17	リリース配信会社経由で掲載
	ナタリー	2016/11/17	リリース配信会社経由で掲載
	ジョルダンニュース!	2016/11/17	リリース配信会社経由で掲載
	産経ニュース	2016/11/17	リリース配信会社経由で掲載
	iza (イザ!)	2016/11/17	リリース配信会社経由で掲載
	とれまが	2016/11/17	リリース配信会社経由で掲載
	おたくま経済新聞	2016/11/17	リリース配信会社経由で掲載
	OKWAVE Guide	2016/11/17	リリース配信会社経由で掲載
	Cube ニュース	2016/11/17	リリース配信会社経由で掲載
	マピオンニュース	2016/11/17	リリース配信会社経由で掲載
	@DIME アットタイム	2016/11/17	リリース配信会社経由で掲載
	@nifty ビジネス	2016/11/17	リリース配信会社経由で掲載
	STRAIGHT PRESS	2016/11/17	リリース配信会社経由で掲載
	読売新聞 (YOMIURI ONLINE)	2016/11/17	リリース配信会社経由で掲載
	東洋経済オンライン	2016/11/17	リリース配信会社経由で掲載
	JPress (日本ビジネスプレス)	2016/11/17	リリース配信会社経由で掲載
	フレッシュアイ	2016/11/17	リリース配信会社経由で掲載
	時事ドットコム	2016/11/17	リリース配信会社経由で掲載
	PRESIDENT Online	2016/11/17	リリース配信会社経由で掲載
	ダイヤモンド・オンライン	2016/11/17	リリース配信会社経由で掲載
	MarkeZine (マーケティング)	2016/11/17	リリース配信会社経由で掲載
	エキサイトニュース	2016/11/17	リリース配信会社経由で掲載
	goo ビジネス EX	2016/11/17	リリース配信会社経由で掲載
	BIGLOBE ニュース	2016/11/17	リリース配信会社経由で掲載
	NewsCafe	2016/11/17	リリース配信会社経由で掲載
	SEOTOOLS	2016/11/17	リリース配信会社経由で掲載
	Bizloop (ビズループ) サーチ	2016/11/17	リリース配信会社経由で掲載
	楽天 NEWS	2016/11/17	リリース配信会社経由で掲載
	奈良新聞 WEB	2016/11/17	リリース配信会社経由で掲載
	財經新聞	2016/11/17	リリース配信会社経由で掲載
	朝日新聞デジタル & M	2016/11/17	リリース配信会社経由で掲載
ウェブ	PR TIMES	2016/11/17	リリース配信会社経由で掲載
	ステージナタリー	2016/11/17	『TPAM 2017』2月に開催、平田オリザ&台湾・盗火劇団『台北ノート』ほか
	横浜美術館	2016/11/27	情報掲載
	タイランドハイパーリンクス	2016/11/29	『フィーバー・ルーム』情報掲載
	precoq	2016/12/5	『フィーバー・ルーム』情報掲載
	マガカル	2016/12/6	情報掲載
	駐日ノルウェー王国大使館 HP	2016/12/19	TPAM フリンジ情報掲載
	アジアパラダイス Podcast	2016/12/26	『田中千絵インタビュー in 台北』、『台北ノート』に言及
	2CHOPO	2016/12/29	『フィーバー・ルーム』情報掲載
	スイッチ総研	2017/1/5	情報掲載
	SEA PROJECT	2017/1/6	情報掲載
	CoRich 舞台芸術	2017/1/6	TPAM フリンジ情報掲載
	エントレ	2017/1/6	TPAM フリンジ情報掲載
	タイ教育・文化センター	2017/1/8	『BALABALA』情報掲載
	快快 / FAIFAI ブログ	2017/1/11	情報掲載
	CoRich 舞台芸術	2017/1/11	TPAM フリンジ情報掲載
	CoRich 舞台芸術	2017/1/13	『台北ノート』情報掲載
	CoRich 舞台芸術	2017/1/13	『BALABALA』情報掲載
	マガカル	2017/1/18	TPAM 広報担当者からの見どころの紹介
	CoRich 舞台芸術	2017/1/19	TPAM フリンジ情報掲載
	CoRich 舞台芸術	2017/1/20	TPAM フリンジ情報掲載
	minatmirai21	2017/1/20	情報掲載
	文化芸術情報サイト	2017/1/21	情報掲載
	The Japan Times	2017/1/24	情報掲載
	マガカル	2017/1/25	情報掲載
急な坂スタジオ	2017/1/26	情報掲載	
演劇最強論-ing	2017/1/27	徳永京子氏による2016年度総括、TPAMに言及	
シラット雑記帳	2017/1/27	『BALABALA』情報掲載	
ART iT	2017/1/28	情報掲載	
マガカル	2017/1/30	情報掲載	
TINY MIX TAPES (米国)	2017/1/31	恩田晃ディレクション紹介	
exblog ガドガド	2017/1/31	情報掲載	
中時電子報 (台湾)	2017/2/1	『台北ノート』情報掲載	
中國時報 (台湾)	2017/2/1	『台北ノート』情報掲載	
METROPOLIS	2017/2/1	情報掲載	
The Dance Times	2017/2/1	情報掲載	
東洋経済日報	2017/2/3	TPAM フリンジ『航海』(Easternmost) 記事	
創造都市横浜	2017/2/3	平田オリザ氏インタビュー、TPAMを例に地域社会と文化の関係にも言及	
メディア芸術カレントコンテンツ	2017/2/3	情報掲載	
台北駐日経済文化代表処	2017/2/8	『台北ノート』情報掲載	
マガカル	2017/2/9	情報掲載	
マガカル	2017/2/9	情報掲載	
EU・ジャパンフェスト日本委員会	2017/2/10	情報掲載	

掲載媒体一覧 (2017年9月現在)

媒体種類	媒体名	掲載/放送日・号	内容など
	客家電視台 (台湾)	2017/2/10	『台北ノート』情報掲載
	蘋果即時 (台湾)	2017/2/10	『台北ノート』情報掲載
	msn 娛樂 (台湾)	2017/2/10	『台北ノート』情報掲載
	今日新聞 (台湾)	2017/2/10	『台北ノート』情報掲載
	中時電子報 (台湾)	2017/2/10	『台北ノート』情報掲載
	中天快點 TV (台湾)	2017/2/11	『台北ノート』情報掲載
	我的中時娛樂 (台湾)	2017/2/11	『台北ノート』情報掲載
	TOKYO ART BEAT	2017/2/11	情報掲載
	dancedition	2017/2/11	情報掲載
	EVENTERI	2017/2/11	情報掲載
	dramatique	2017/2/11	情報掲載
	看戲 ..... 看球 ..... 看風景 (到舊版) (台湾)	2017/2/11	『台北ノート』情報掲載
	中時電子報 (台湾)	2017/2/11	『台北ノート』情報掲載
	演劇最強論-ing	2017/2/12	TPAM 紹介、TPAM フリンジ『HOST』(アイサ・ホクソン) 劇評
	Happy Tent	2017/2/12	情報掲載
	BankART 1929 BLOG	2017/2/12	TPAM レポート
	映画時光	2017/2/13	『台北ノート』情報掲載
	Enjoying Life with Art	2017/2/14	『フィーバー・ルーム』劇評
	westkowlon (香港)	2017/2/15	「グループ・ミーティング」レポート
	Sightsong	2017/2/15	『独儀：七つの息』劇評
	劇場文化のフィールドワーク	2017/2/15	『台北ノート』レポート
	台北駐日経済文化代表処	2017/2/17	『台北ノート』記事
	台湾新聞 BLOG	2017/2/17	『台北ノート』の観劇レポート、オーディションから上演に至るまでの背景を解説
	Radio Taiwan International	2017/2/17	『台北ノート』記事
	亞東關係協會 (台湾)	2017/2/17	『台北ノート』記事
	今日新聞 (台湾)	2017/2/17	『台北ノート』記事
	Wow!NEWS 新聞網 (台湾)	2017/2/17	『台北ノート』記事
	中時電子報 (台湾)	2017/2/18	『台北ノート』記事
	JAPANGIVING	2017/2/18	TPAM フリンジ『GHOSTS-COMPOSITION/IBSEN』(shelf) 劇評
	excite. ニュース	2017/2/18	『台北ノート』記事
	フォーカス台湾	2017/2/18	台北駐日経済文化代表処の朱文清・台湾文化センター長による『台北ノート』へのコメントを紹介
	台湾英文新聞 (台湾)	2017/2/19	『台北ノート』記事
	洪々演劇論+α	2017/2/19	TPAM フリンジ『Saturday Balloon』(ヌトミック) 劇評
	pen ONLINE	2017/2/20	『フィーバー・ルーム』劇評
	蘋果即時 (台湾)	2017/2/22	『台北ノート』記事
ウェブ	CNN Philippines (フィリピン)	2017/2/24	TPAM フリンジ『HOST』(アイサ・ホクソン) 記事
	WG	2017/2/25	TPAM 参加レポート
	WG	2017/2/25	TPAM 参加レポート
	WG	2017/2/25	TPAM 参加レポート
	WG	2017/2/25	TPAM 参加レポート
	Dance Bridges (インド)	2017/2/25	TPAM 参加レポート
	Arts Equator (シンガポール)	2017/2/27	中山こずゑ横浜市文化観光局長へのインタビュー
	アゴラの人々	2017/2/28	TPAM 参加レポート
	a day online (タイ)	2017/3/1	『サムート・タイ』評
	Arts Equator (シンガポール)	2017/3/1	TPAM フリンジ『GHOSTS-COMPOSITION/IBSEN』(shelf) 劇評
	NHK 横浜ライブラリー	2017/3/7	情報掲載
	Arts Equator	2017/3/8	『フィーバー・ルーム』劇評
	artscape	2017/3/15	『フィーバー・ルーム』に言及
	artscape	2017/3/15	『台北ノート』劇評
	artscape	2017/3/15	『TOWER (theater)』劇評
	artscape	2017/3/15	『独儀：七つの息』劇評
	artscape	2017/3/15	TPAM フリンジ『妻と兵隊』より(ダンスアーカイブプロジェクト 2017) 劇評
	創造都市横浜	2017/3/16	TPAM に参加したボランティア、インターン 4 名へのインタビュー
	footage (インドネシア)	2017/3/21	TPAM 参加レポート
	TEMPO (インドネシア)	2017/3/27	『BALABALA』劇評
	TEMPO (インドネシア)	2017/3/27	『悪霊への道』劇評
	Explat	不明	インターン募集
	神奈川芸術劇場	不明	情報掲載
	Australia Council for the Arts (オーストラリア)	不明	情報掲載
ヨコハマ・アートナビ	不明	『フィーバー・ルーム』『BALABALA』情報掲載	
フィルムアート社 HP	不明	『フィーバー・ルーム』情報掲載	
British Council (英国)	不明	情報掲載	
L'ONDA (フランス)	不明	情報掲載	
KICK THE MACHINE (タイ)	不明	『フィーバー・ルーム』情報掲載	
12345678	不明	『フィーバー・ルーム』情報掲載	
ヨコハマ・アートナビ	不明	『フィーバー・ルーム』『BALABALA』情報掲載	
日本インドネシア協会	不明	『BALABALA』情報掲載	
オカムラ&カンパニー	不明	情報掲載	
表演藝術 (台湾)	不明	『台北ノート』情報掲載	
青年団公式ホームページ	不明	『台北ノート』情報掲載	
象の鼻テラス	不明	TPAM フリンジ情報掲載	
WALKER +	不明	TPAM フリンジ情報掲載	
ST Spot	不明	TPAM フリンジ情報掲載	
トキ庫。	不明	TPAM フリンジ情報掲載	
広告	『フィーバー・ルーム』予告編上映	2016/12 ~ 2017/1	「アピチャッポン本人が選ぶ短編集」(東京都写真美術館)
	『フィーバー・ルーム』予告編上映	2016/12 ~ 2017/1	「アンコール! アピチャッポン・イン・ザ・ウッズ 2016」(シアター・イメージフォーラム)
	国際演劇年間 2016	2017/3	広告掲載
	PAMS プログラム (韓国)	2016/10	広告掲載
	THE WIRE (英国)	2017/1	広告掲載
	CINARS プログラム (カナダ)	2016/11	広告掲載
	NAMSAN ARTS CENTER プログラム (韓国)	2016/10	広告掲載
	WOMEX ウェブサイト (国際)	2017/1	バナー掲載
	precog メルマガ	2016/12/2	『フィーバー・ルーム』告知
	precog メルマガ	2017/1/1	『フィーバー・ルーム』告知



国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2017の各プログラムは、台北芸術祭、横浜美術館、台湾文化部／外交部／僑務委員会、台湾新聞、台北駐日経済文化代表処台湾文化センター、台北駐日経済文化代表処横浜分処、横濱中華學院（以上『台北ノート』）、カナダ・カウンシル・フォー・ジ・アーツ（『パフォーマンスの百科事典』）、コミュニタス・サリハラ、アジア TOPA／アーツ・センター・メルボルン、デシゲル国際芸術大学、シドニー・フェスティバル、ムーゾントアルム、ファブリカ・ポツダム、 國家表演藝術中心／國家两厅院、インドネシア北マルク州西ハルマヘラ県／県知事／観光局（以上『BALABALA』）、公益財団法人セゾン文化財団、城崎国際アートセンター、京都芸術センター（以上『ZERO ONE』）、センター42、ヨーロッパ・ダンスハウス・ネットワーク、EUクリエイティブ・ヨーロッパ・プログラム、ブリティッシュ・カウンシル、フランス芸術振興会、韓国芸術経営支援センター、ナショナル・アーツ・カウンシル・シンガポール、東京ドイツ文化センター、ITCA（以上TPAMエクスチェンジ）から共催、助成、共同製作、協力などの形で支援を受けて実施されました。

国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2017 開催報告書  
 発行日：2017年9月20日  
 編集・発行：国際舞台芸術ミーティング in 横浜 事務局  
 ©国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2017 実行委員会

